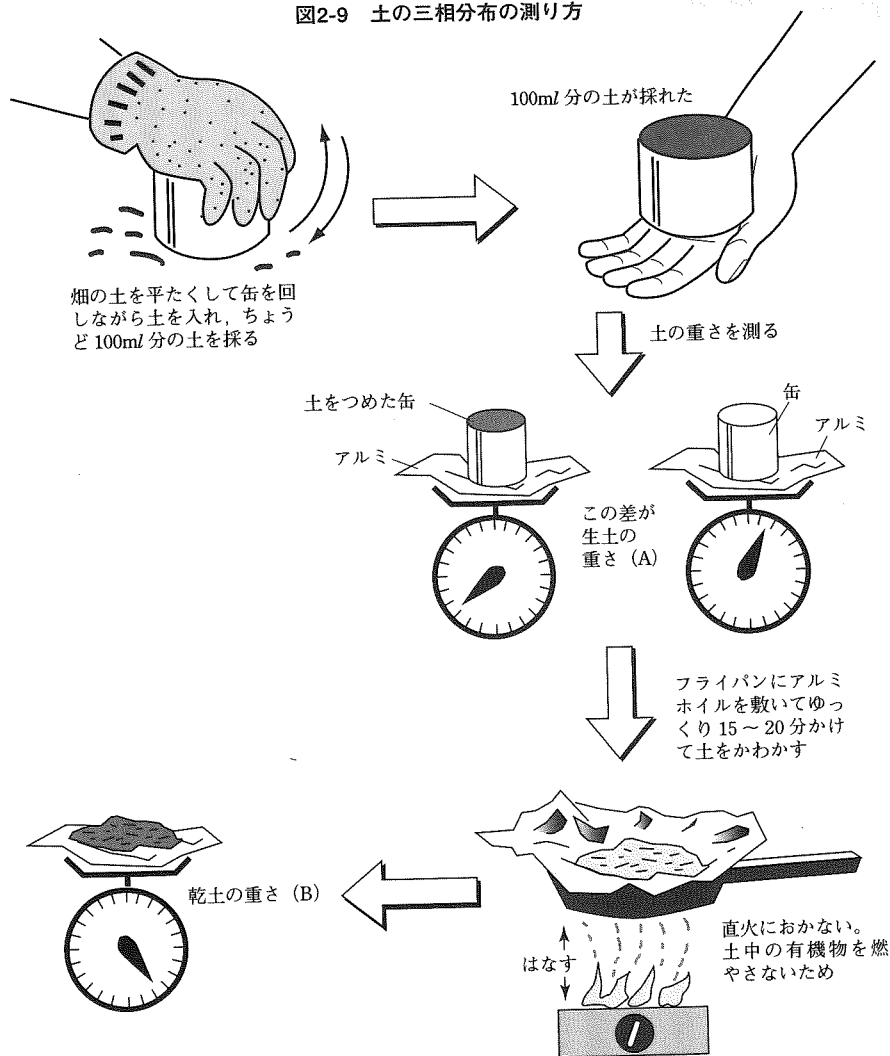


図2-9 土の三相分布の測り方



100ml の生土の重さ (A)



135g

それを乾燥させた土の重さ (B)



95g

三相分布を出す計算

液相の% (液相率) = $A - B$ ($135 - 95 = 40.0$)

固相の% (固相率) = $B \div 2.65$ ($95 \div 2.65 = 35.8$)

2.65 とは固相部分の比重 (真比重)

気相の% (気相率) = $100\% - (\text{液相}\% + \text{固相}\%)$

$(100 - (40.0 + 35.8) = 24.2)$

量(グラム)

固相率(%) $\equiv$ 一〇〇ミリリットル
の乾土重量(グラム) / 土の真比
重

気相率(%) $\equiv$ 一〇〇 - (液相率 + 固
相率)

仮比重は、乾土の重さを容積(この
ばあい一〇〇ミリリットル)で割ると
求められるが、三相分布の固相率から、
次の式で計算できる。

仮比重 $\equiv$ 固相率 / 一〇〇 $\times$ 真比重

この方法は、堆肥の三相分布と仮比
重の計算にも通用するものである。そ
のさい、固相率の計算に使う真比重は、
有機物の真比重一・二を用いる。

3

第二のキイナンバー

— 堆肥の仮比重は〇・二が理想 — 使って

省力・低コスト・安全

さて、土の仮比重を一・〇に改善する
ために用いる堆肥にはどのような性質
が要求されるか。それには堆肥自体の
重さが大切で、仮比重〇・二くらいであ
ることが、土壌改良効果、経済性と労
力、さらには作物に対する安全性など
を総合的に考えて、もっとも望ましい
のである。堆肥利用で土のブラックボ
ックスの扉を開くための第二のキイナ
ンバーは、堆肥の仮比重〇・二である。

仮比重〇・二の家畜糞・オガク
ズ堆肥

堆肥利用がよいとわかっていても、

敬遠して、つい化学肥料中心の施肥や
微生物資材の利用に傾く人の話を聞く
と、次のような理由があげられる。

①堆肥投入は重労働で労力と時間がか
かること、②土の改善に必要な大量な
堆肥を入れるにはお金がかかりすぎる
こと、③窒素やカリの過剰など養分過
剰問題が起ること。つまり、労力・
時間、価格、そして作物への安全性、
という問題である。これらすべてをク
リアできないと、自信をもって堆肥利
用を続けられないし、つくった堆肥は
売れない。

本書がすすめる新堆肥のつくり方と
品質などについて詳しくは第3章で紹